

スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー
初任者研修

第1回研修(導入編)

■ 本研修の位置づけ

- 学校現場におけるSC/SSWとしての活動の基本を理解し、円滑に業務を開始するための土台形成を行う。
- 「心理・福祉」の専門性を「学校教育」という文脈で最大限に発揮するための視点を獲得する。
- 横のつながり・ネットワークを構築し、活動時の円滑な連携・相互理解の機運を醸成する。

■ 事前課題の確認（実施・持参すること）

- 自己紹介の準備
 - ✓ 自身の経歴に加え、話しやすい話題（趣味等）を含めること。
- 『生徒指導提要（改訂版）』の熟読（必須）
 - ✓ 生徒指導の実践に際し教職員間や学校間で共通理解を図り、組織的・体系的な取組を進めることを目的として作成された、生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書。
 - ✓ 保護者が参照していることもある。
- 『学習指導要領』の読み込み（推奨）
 - ✓ 全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準。
「学習指導要領」では、小学校、中学校、高等学校等ごとに、それぞれの教科等の目標や大まかな教育内容を定めている。
各教科の細かい内容ではなく、全教科を通じた教育の目標や基本方針が記載されている「総則」に目を通しておくこと。
また、これとは別に、学校教育法施行規則で、それぞれの教科等の年間の標準授業時数等が定められている。
 - ✓ 各学校では、この「学習指導要領」や年間の標準授業時数等を踏まえ、地域や学校の実態に応じて、教育課程（カリキュラム）を編成している。
 - ✓ 学校教育法等に定められた教育の目標や児童生徒の学習状況等を理解するために一読しておくこと。
- 教育分野における心理支援に関する学習（「教育・学校心理学」、「教育分野に関する理論と支援の展開」など）や実践の振り返り
 - ✓ 「教育・学校心理学」等の専門知見の再確認や、自身の実践の振り返りを行っておくこと。

(参考) SC/SSW標準研修実施プログラム

| 項目 | 第1回研修(導入編) | 第2回研修(実践編) | 第3回研修(応用・発展編) |
|----------|--|---|---|
| 対象者 | 学校現場でSC/SSWとして従事する者(特に初任者) | (第1回参加者に同じ) | (第1回参加者に同じ) |
| 目的 | 学校現場に着任するSC/SSWが、その役割と活動の基本を理解し、円滑に業務を開始できるようになることを目指す。また、同期のネットワークを構築し、孤立を防ぐ。 | 1学期の活動を振り返り、SC/SSWに求められる中核スキル(アセスメント、ケース対応)をグループワーク等を通して振り返る。また、緊急時対応の基礎を学ぶ。 | 自身の専門性を振り返り、より発展的なスキル(組織への働きかけ等)を学ぶきっかけとすると共に、中長期的なキャリア展望を描けるようになることを目指す。 |
| 時期 | 着任初期(4月~6月) | 夏休み期間(7月~8月)~1学期末 | 2学期(10月~12月) |
| 各回のコンセプト | 学校現場に着任するにあたっての心構え、役割理解、関係構築の基礎を学ぶ。 | 具体的なケースを通して、アセスメントや多様な課題への対応方法を実践的に学ぶ。 | 組織への働きかけや自己のキャリアを考え、専門性を高め続ける視点を養う。 |
| 実施方式/時間 | 対面研修(1日 ※少なくとも半日) <ul style="list-style-type: none"> 講義+グループワーク ※ハイブリッド開催も検討可 | 対面研修(1日 ※少なくとも半日) <ul style="list-style-type: none"> 講義+(経験豊富なSC/SSWを交えた)ミニケーススタディ/ロールプレイ | 対面研修(1日 ※少なくとも半日) <ul style="list-style-type: none"> 講義+グループワーク+先輩SC/SSWとの対話 |
| 講師(案) | <ul style="list-style-type: none"> 教育委員会担当者 大学教員等の専門家 経験豊富なSC/SSW(SVレベル) 地域職能団体で教育分野に詳しい実践家 | (第1回講師に同じ) <ul style="list-style-type: none"> グループワークは経験豊富なSC/SSWがサポート・相談役として関与することが望ましい | (第1回講師に同じ) |
| 事前準備 | <ul style="list-style-type: none"> 自己紹介の準備 『生徒指導提要』の熟読(必須) 『学習指導要領』の読み込み(推奨) 教育分野における心理支援に関する学習(「教育・学校心理学」、「教育分野に関する理論と支援の展開」など)や実践の振り返り | <ul style="list-style-type: none"> 1学期の活動で印象的だった事例や困難事例の整理(振り返りシート等) ケース課題に関する事前演習 | <ul style="list-style-type: none"> 担当ケースに関する悩みや課題の整理 自身のキャリアに関する関心事項の言語化 自治体の最新の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の速報値を確認 |
| 研修内容 | <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション、研修全体の目的共有 グループワーク 自治体の現況・問題意識 教育相談に関する自治体としての取組 学校教育における支援の枠組み 「チーム学校」におけるSC/SSWの役割・倫理 学校組織の理解と教職員との関係構築法 多職種・地域資源との連携 職能団体・学会や外部研修の紹介 | <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション、1学期の活動の振り返りと課題共有(グループワーク) アセスメントの視点と方法 緊急時対応の基本(危機介入、PFA) ミニケーススタディ(グループワーク) <ol style="list-style-type: none"> 不登校 いじめ 心理教育・自殺予防教育について 学級や学校における援助サービスの現状把握・振り返り 自己研鑽の考え方・外部研修の紹介 | <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 組織へのアプローチ スーパービジョン(SV)の重要性と活用方法 SC/SSWのキャリアパス グループワーク(今後の目標設定、地域の資源マップ作成) 自己研鑽の考え方・外部研修の紹介 |
| 使用教材/その他 | <ul style="list-style-type: none"> 研修資料本体(パワーポイント資料) 関連法規・指針リスト 外部研修/職能団体リスト | <ul style="list-style-type: none"> 研修資料本体(パワーポイント資料) 事例検討用資料 1学期振り返りシート | <ul style="list-style-type: none"> 研修資料本体(パワーポイント資料) |

1. オリエンテーション、研修全体の目的共有
2. グループワーク
3. 自治体の現況・問題意識
4. 教育相談に関する自治体としての取組
5. 学校教育における支援の枠組み
6. 「チーム学校」におけるSC/SSWの役割・倫理
7. 学校組織の理解と教職員との関係構築法
8. 多職種・地域資源との連携
9. 職能団体・学会や外部研修の紹介

オリエンテーション、研修全体の目的共有

■ 研修全体の到達目標

- 学校現場の「チームの一員」としての役割を理解し、円滑に業務を開始できる状態を目指す。
- 他職種との連携スキルを高めるとともに、同期等との横のつながりを作る。

■ 本日のゴール（導入編）

- 学校文化・組織を理解し、「学校アセスメント」の視点を持つ。
- 教職員との信頼関係構築（ラポール形成）の基礎を学ぶ。

■ 本日のタイムテーブルは以下のとおり。

所要時間並びに時間割については実施主体にて修正。

| 内容 | 項目 | 所要時間 | 時間割 |
|---------|--|------|-----|
| 導入 | 1. オリエンテーション 2. グループワーク | | |
| 地域の理解 | 3. 自治体の現況・問題意識 4. 教育相談に関する自治体としての取組 | | |
| （休憩） | | | |
| 学校理解と役割 | 5. 学校教育における支援の枠組み 6. 「チーム学校」におけるSC/SSWの役割・倫理 7. 学校組織の理解と教職員との関係構築法 | | |
| （休憩） | | | |
| 連携・資源 | 8. 地域資源との連携 9. 職能団体・学会や外部研修の紹介 | | |
| まとめ | 質疑応答・まとめ | | |

■ ワークの目的

- 同期との関係づくり(アイスブレイク)
- 着任直後の「不安」や「期待」の言語化・共有

■ 共有内容

- 氏名・配属校(勤務形態)
- SC/SSWとしての経験年数、教員経験の有無等
- 着任して感じていること(期待、不安、困っていること)
- 個人的な趣味・好きなこと

■ ルール

- 守秘義務の厳守
(研修内のケース・話し合い等で挙がった内容について、特定の個人や事例が特定される内容を外部で口外しないこと)
- 否定せず、共感的に聴くこと

〇〇県(市)の現況・問題意識

■ 最新の児童生徒データ

- 不登校児童生徒数:〇〇人(前年比 ±〇〇)
 - ✓ 新規:〇〇人(前年比 ±〇〇)
 - ✓ 継続:〇〇人(前年比 ±〇〇)
- いじめ認知件数:〇〇件
 - ✓ 解消件数:〇〇件(解消率:〇〇%)
 - ✓ 重大事態の発生件数:〇〇件
 - ✓ 「重大事態」の重大な被害を把握する以前のいじめの対応状況:認知していた〇件、認知していなかった〇件

各〇について、各自治体での最新の数字を記入。

■ 数字の背景にあるもの

ここに各自治体固有の課題分析を記載。

例: SNS等における誹謗中傷や投稿等インターネット上でのいじめの増加等

※単なる増減の一喜一憂ではなく、その背景(家庭環境の変化、複合的な課題等)や、県としての対策方針を説明すること。

本自治体の教育相談体制とリソース

■ 教育相談体制の全体像

ここに各自治体の教育相談体制の全体像を記載。

例:教育センター、教育相談窓口の役割、教育ブロックごとの特色、SC/SSWの配置状況

■ 今年度の重点施策

ここに各自治体の今年度の重点施策を記載。

例:1人1台端末等を活用した「心の健康観察」、不登校支援の早期介入、いじめ未然防止プログラムの推進、情報モラル教育の推進等

本自治体の教育相談体制とリソース

■ 活用できるリソース

ここに各自治体の活用できるリソースを記載。

例:教育支援センター等の紹介、進路相談・特別支援教育との連携

■ 本自治体がSC/SSWに望むこと(期待する役割)

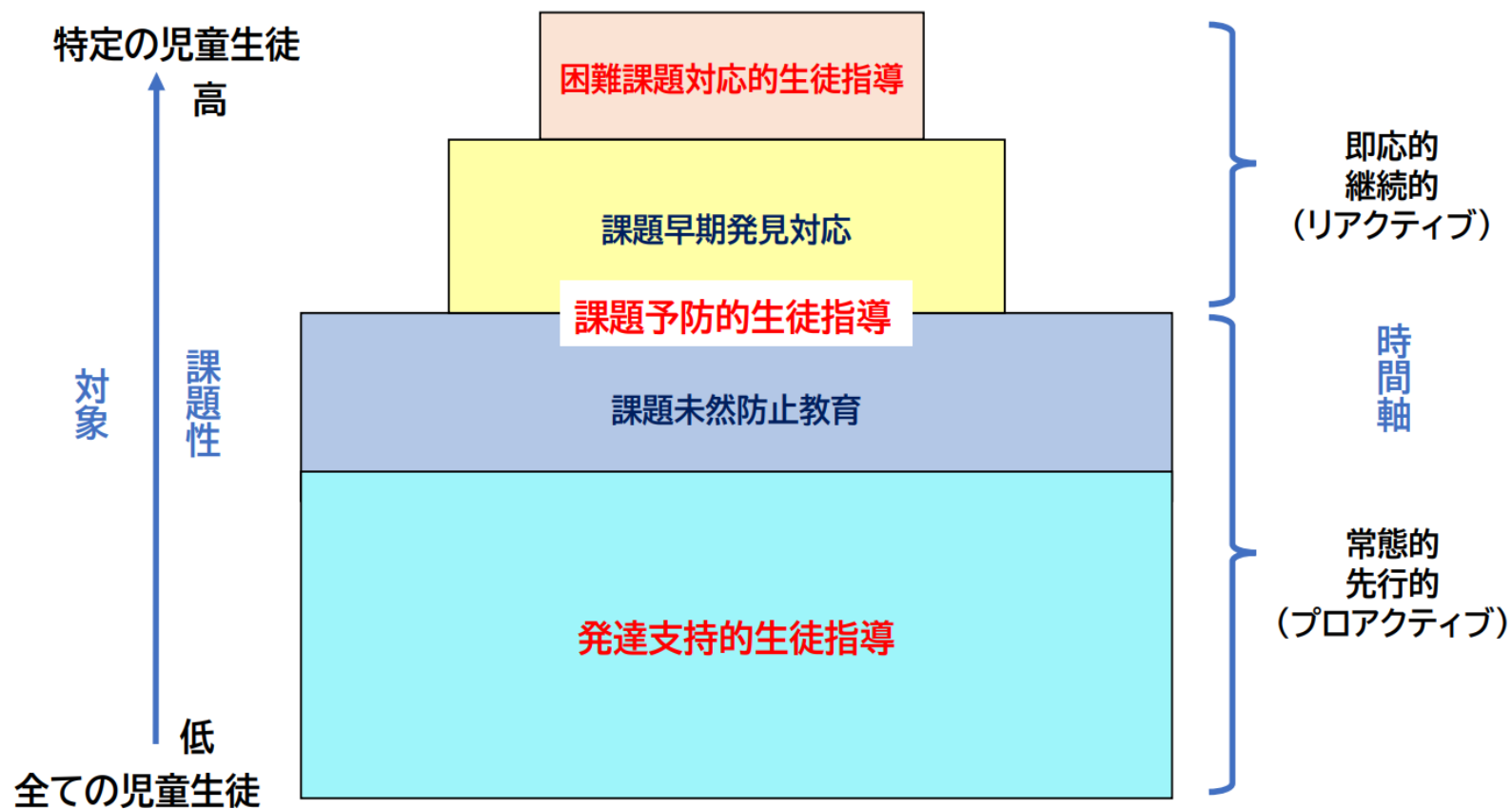
ここに各自治体がSC/SSWに対して期待すること、担ってほしい役割を記載。

例:チーム学校の一員としての積極的な情報共有、不登校の未然防止に向けた開発的アプローチ、教員へのコンサルテーション等

「チーム学校」と重層的支援構造

■ 生徒指導の重層的支援構造（2軸3類4層構造）

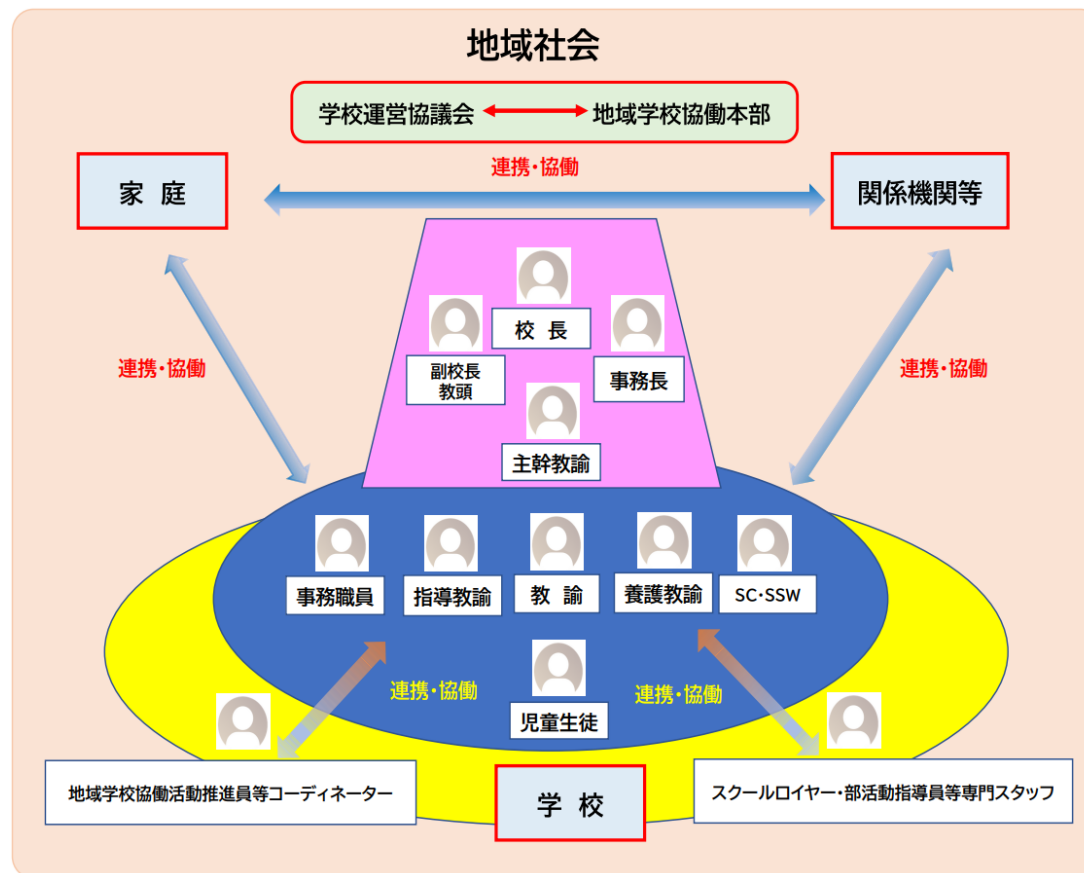
- 全ての児童生徒を対象とした「発達支持的生徒指導」が土台となる。
- 課題が生じる前の「未然防止」、早期の「早期発見・対応」、そして「困難課題対応」へと続く構造である。



「チーム学校」と重層的支援構造

■ SC/SSWの立ち位置

- 外部からの訪問者ではなく、学校組織の一員（教職員）としてチームに参画する。
- 先生の横に並び、異なる専門性で学校教育目標の達成を支える役割を担う。



専門性の発揮と守秘義務

■ 専門性の異同と統合

- 教師(教育): 学習面を含む学校生活全般の視点からのアセスメントと指導・支援
- SC(心理): 心理的および発達の視点からのアセスメントと支援
- SSW(福祉): 福祉的および環境の視点からのアセスメントと環境調整
- 共通: それぞれの視点を持ち寄り、最終的に「チームとしての支援方針」へ統合し各自が現場に持ち帰ることが重要である。

■ 守秘義務とチームとしての対応

- 学校においてSC/SSWの担い手となる公認心理師や社会福祉士等の国家資格に基づき心理や福祉の業務を行う者には、教職員としての守秘義務に加えて、それぞれに課されている義務等を定める法律において「秘密保持義務」とともに、「関係者等との連携義務」が課されている。(民間資格である臨床心理士についても「一般社団法人日本臨床心理士会倫理綱領」において同旨が定められている。)
- 学校においても、組織としての対応が求められることから、教職員間で必要な情報共有を行うことは「関係者等との連携義務」の範囲内であり、秘密保持義務違反にはならないと解される。
- SC/SSWとしての専門性を発揮するには、教職員との密なコミュニケーションを通じた対応が不可欠であり、面談等により把握した情報については、必要な範囲内において教職員間で情報共有を行い、チームとして早期対応・早期支援に当たる必要がある。その際、課題を抱えている児童生徒が自らSOSを発せるとは限らないことに留意する。
- 関係者間で必要な情報を共有するに当たっては、例えば、児童生徒との面談等において、抱えている課題を解決するには担任の先生などの協力を求める必要があることや、協力を得ることでのどのような解決の糸口が考えられるかなどを丁寧に伝え、安心感と理解を得た上で、共同で意思決定するプロセス(パートナーシップ、シェアード・ディシジョン・メイキング)を徹底する必要がある。
- SC/SSWも学校の職員として管理職の命令に従う必要があることから、例えば、管理職に直接報告する内容などについては事前に確認しておくことが求められる。

学校組織の理解と関係構築のポイント

■ 「学校に関するアセスメント」の重要性

- 子どもへのアセスメントだけでなく、「学校教育や学校組織全体に関することをアセスメントする(知る)」視点を持つ。
- 「学校の中で誰が中心となって動いているのか」、「誰に相談すれば情報が得られるのか」を把握する(校務分掌図の確認)。
- 管理職(校長・教頭)、生徒指導主事、養護教諭、担任等の役割と指揮命令系統を理解すること。
- 生徒指導の状況(重層的支援)を把握すること。

■ 教職員との関係構築

- リスペクト:教育の専門家である教員へのリスペクトを持ち、「手伝う」のではなく「協働する」姿勢を示すこと。
- 情報共有:相談室で待つだけでなく、教職員と積極的にコミュニケーションを取る。自らSOSを出せない児童生徒もいるため、授業風景や休み時間の様子を観察(情報収集)し、早期発見・対応につなげる。

地域資源との連携: 生きたマップづくり

■ 地域連携の考え方

- 学校だけで抱え込まず、適切な専門機関につなぐことが重要である。
- 関係機関の例: 児童相談所、市町村(福祉課・子育て支援課)、医療機関、警察等。

■ 「生きた資源マップ」の作成

- 単なる「リスト」や「電話番号」だけでは不十分である。
- 地図上に落とし込み、「担当者の名前」、「顔の見える関係」、「具体的な連絡手順」まで含めたマップを構築していく意識を持つこと。
- 地域の大学や職能団体も重要な資源の一つである。

【お願い】

ワークシートは、これからの1年間の業務の中で手元に置き、「新たな機関とつながりができた」、「ここにも相談できそうだな」と気づいた際など、意識してコツコツと書き足していくことを推奨する。

※第3回研修のグループワークにて共有いただく予定

以下のとおり整理できた地域資源を
実際の地図に落とし込み、
今後活用することが目的!

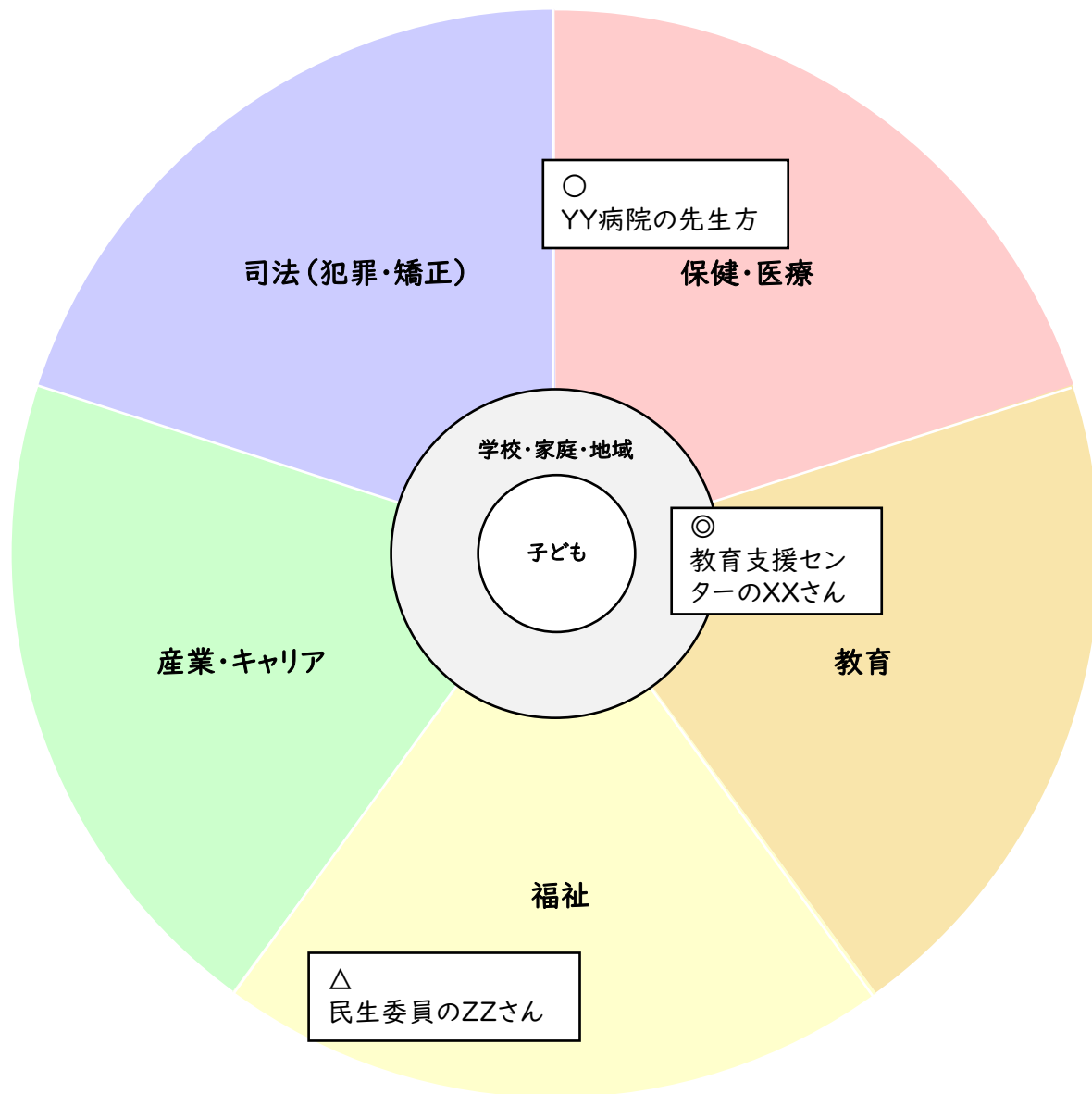
【ワーク】地域資源マップの作成～「顔の見える関係」の現状把握～

■ ワークの目的

- 子どもを取り巻く支援リソースを可視化し、現在の「つながりの濃さ」を確認する。
- 連携が不足している領域(空白地帯)に気づき、今後の関係構築の目標とする。

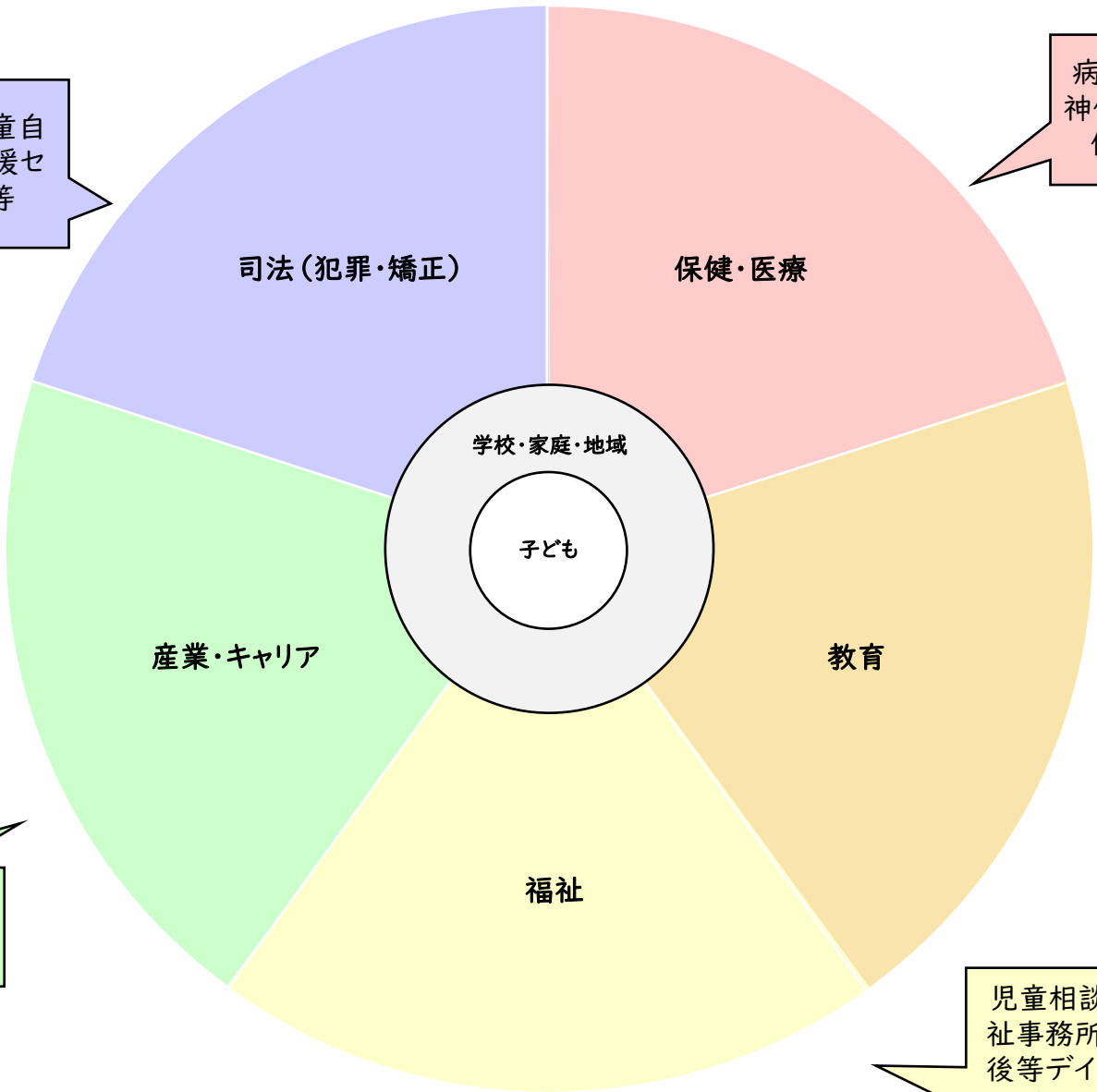
■ ルール・手順

1. 手元の用紙の中央が「子ども」、
「学校・家庭・地域」
2. 用紙を5つのエリアに区切る。
3. 思いつく関係機関や人物を配置する。
※心理的な距離が近いものほど
自校近くに配置
4. 関係性の濃さで記号をつける。
 - ✓ ◎:担当者の顔が浮かび、携帯
や直通電話で相談できる。
 - ✓ ○:窓口や組織としての連絡先
を知っている。
 - ✓ △:名前は知っているが、接点
はない。



【ワークシート】

警察、青少年センター、児童自立支援施設、法務少年支援センター、人権擁護委員等



病院、精神科医、嘱託医、精神保健福祉センター、保健所、保健センター、保健師等

教育支援センター、フリースクール等

地域若者サポートステーション、ハローワーク等

児童相談所、児童家庭センター、福祉事務所(家庭児童相談室)、放課後等デイ、市町村福祉課、児童養護施設、民生委員・児童委員等

自己研鑽と専門性の維持・向上

■ 学び続ける姿勢

- 事例への対応に迷いが生じた際には、独断で判断を進めるのではなく、支援の質を高めるとともに、専門職としての倫理の確保およびキャリア発達を支える観点から、SV(スーパービジョン)を活用することが推奨される。
- 自身のメンタルヘルス維持のためにも、専門職ネットワークを活用すること。

■ 主な職能団体・学会

- 心理職
 - ✓ 一般財団法人 公認心理師試験研修センター
 - ✓ 公益社団法人 日本公認心理師協会
 - ✓ 一般社団法人 日本臨床心理士会
 - ✓ 一般社団法人 学校心理士認定運営機構・日本学校心理士会
 - ✓ 一般社団法人 日本スクールカウンセリング推進協議会
 - ✓ 一般社団法人 日本学校心理学会
 - ✓ 一般社団法人 日本心理臨床学会
 - ✓ 一般社団法人 日本教育心理学会
 - ✓ 一般社団法人 日本発達心理学会
- 福祉職
 - ✓ 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟
 - ✓ 公益社団法人 日本社会福祉士会
 - ✓ 公益社団法人 日本精神保健福祉士協会
 - ✓ 日本学校ソーシャルワーク学会
 - ✓ 一般社団法人 日本社会福祉学会
- (※地域の職能団体の連絡先等を記載)

各自治体で必要に応じて記入。

■ 外部研修の年間スケジュール

ここに各自治体内外で実施している外部研修の情報を記載

■ 質疑応答・まとめ

ここに研修を通じて伝えたいメッセージの再掲や、
参加者からの質疑応答を受け付けるための各事項を記載

- 生徒指導提要(改訂版)(文部科学省)

https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf

(2026年3月31日閲覧)

スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー
初任者研修

第2回研修（実践編）

1. オリエンテーション、1学期の活動の振り返りと課題共有(グループワーク)
2. アセスメントの視点と方法
3. 緊急時対応の基本(危機介入、PFA)
4. ミニケーススタディ(グループワーク)
 - ① 不登校
 - ② いじめ
5. 心理教育・自殺予防教育について
6. 学級や学校における援助サービスの現状把握・振り返り
7. 自己研鑽の考え方・外部研修の紹介

■ 研修全体の到達目標/研修概要

- ・ 1学期の自らの活動の振り返りや他の参加者の活動の振り返りを通じて、SCおよびSSWに求められる中核的なスキル（アセスメントやケース対応）について学習する。
- ・ 緊急時対応の基礎的な内容を学習する。

■ 本日のゴール（実践編）

- ・ SCおよびSSWに求められる中核的なスキル（アセスメントやケース対応）について理解する。
- ・ グループワークによるスキルアップの取組みを体験し、手法を理解する。

| アジェンダ | | 所要時間 | 時間割 |
|------------------------|---------------------------|------|-----|
| 講義形式 (一部グループワークを含む) | オリエンテーション | | |
| | 1学期の活動の振り返りと共有（グループワーク） | | |
| | アセスメントの視点と方法 | | |
| | 緊急時対応の基本 | | |
| （休憩） | | | |
| グループワーク形式 | アイスブレイク（グループワーク内自己紹介） | | |
| | ミニケーススタディ:① 不登校 | | |
| | ミニケーススタディ:② いじめ | | |
| | ミニケーススタディを実施しての振り返り | | |
| （休憩） | | | |
| 講義形式 | 心理教育・自殺予防教育 | | |
| | 学級や学校における援助サービスの現状把握・振り返り | | |
| 外部研修の紹介 | | | |

所要時間並びに時間割については実施主体にて修正。

1学期の活動の振り返りと課題共有（グループワーク）

- 自身が直面した印象的な事例や日々の支援活動を振り返る。
- お互いの活動内容について情報共有し、互いの経験から学びあいを行うと共に、参加者間で共通する課題を抽出する。

【1学期 活動・事例振り返りシート】（別紙・事前共有）

- 状況が改善した支援の振り返り
- 支援が困難と感じた事例の振り返りと課題分析

➤ 状況が改善した支援および支援が困難と感じた事例について、「概要」「工夫した点」「課題点」などを記載。また、それぞれ「参加者とディスカッションしたいポイント」も記載。

活動・事例振り返りシート（一部、事前配布済み）

1 学期 活動・事例振り返りシート

〇〇教育委員会

所属校（機関）：
 職種：□SC □SSW
 経験年数：（ ）年目
 氏名：
 =====

1. 状況が改善した支援の振り返り

（1）事例・活動の概要

※ 守秘義務に配慮し、個人が特定されない形で記載してください。

- 対象（例：児童生徒/保護者/教職員 等）：（ ）
- 主な支援ニーズ：（ ）
- 実施時期・関与した期間：（ ）
- 関係者（例：担任教員/学校管理職/外部機関 等）：（ ）

【記載欄】

（2）状況が改善した要因および支援で工夫した点

※ 状況が改善した要因に焦点を当てて記載してください。

- アセスメントや見立てで実施した点
- 校内・校外連携で工夫した点 など

【記載欄】

2. 支援が困難と感じた事例の振り返りと課題分析

（1）事例・活動の概要

※ 守秘義務に配慮し、個人が特定されない形で記載してください。

- 対象（例：児童生徒/保護者/教職員 等）：（ ）
- 主な支援ニーズ：（ ）
- 実施時期・関与した期間：（ ）
- 関係者（例：担任教員/学校管理職/外部機関 等）：（ ）

【記載欄】

（2）これまで行なった対応/工夫

※ 「現状」に対応できている点/取り組む点も含めて記載してください。

- 担当の役割や協力
- 校内での調整・連携のあり方
- その他工夫した点や実施した点 など

【記載欄】

- SC:心理的課題を抱える児童生徒について、面接や行動観察を通じて情報収集し、見立てを行い、適切な支援を教職員とともに行う。
- SSW:児童生徒の置かれた家庭・生活環境への働きかけや関係機関との連携を含めた社会的アセスメントの視点から支援を行う。

| 観点 | スクールカウンセラー (SC) | スクールソーシャルワーカー (SSW) |
|----------------|--|---|
| 専門領域 | 心理学および心理支援 | 社会福祉 |
| 主なアプローチ | 子どもの心理社会面や発達および学校生活への働きかけ | 子どもを取り巻く環境への働きかけ |
| 主なアセスメントの対象と視点 | <p>心理的および発達の視点 本人の「心理社会的な要因」(認知・感情・行動、対人関係など)や「発達」と環境との相互作用を理解する。</p> | <p>福祉的および環境の視点 本人が置かれている状況や環境が、本人に与える影響を理解する。</p> |
| 「社会面」の主な捉え方 | ソーシャルスキル、対人関係(友人・家族等)、集団の中での行動など、個人と社会の関係性に着目する。 | 家庭環境、経済状況、利用可能な社会資源、地域の制度など、個人を取り巻く人間関係や社会環境に着目する。 |
| 具体的な着眼点(例) | <ul style="list-style-type: none"> • 発達の特性や課題 • ストレスへの対処方法、問題解決の方法 • (本人が認識する)友人関係や家族関係 • 学習やキャリアに関する意識や不安 • 学校のシステムや支援体制 • 保護者への助言・援助 • 危機対応(不登校、いじめ問題等) | <ul style="list-style-type: none"> • 家庭の養育環境や経済状況 • 活用できる公的サービスや地域資源 • 学校のシステムや支援体制 • 関係機関(児童相談所、医療機関等)との連携状況 |

- 心理的応急処置（Psychological First Aid:PFA）とは、危機的状況におかれた人々のところに配慮した支援ができるよう、支援者が取るべき行動や姿勢を示したもの。PFAは、トラウマ的出来事によって引き起こされる初期の苦痛を軽減すること、短期・長期的な適応機能と対処行動を促進することを目的とする。
- サイコロジカル・ファーストエイド学校版（PFA-S）は、教師やスクールカウンセラーを提供者として想定し、災害等に見舞われた学校やコミュニティで、児童生徒のみならず保護者・教職員を援助するための介入モデルである。また、有効性が検証されている支援方法を体系的に取りまとめ作成されている。

PFA-S（サイコロジカル・ファーストエイド学校版）の活動内容

| | | | |
|---|--|---|--|
| 1 | <p>被災者に近づき、活動を始める</p> <p>目的:被災者に負担をかけない共感的な態度で、こちらから手をさしのべたり、生徒や教職員の求めに応じたりする。</p> | 5 | <p>現実的な問題の解決を助ける</p> <p>目的:いま必要としていること、困っていることに取り組むために、生徒と教職員を現実的に支援する。</p> |
| 2 | <p>安全と安心感</p> <p>目的:当面の安全を確かなものにし、被災者が心身を休められるようにする。</p> | 6 | <p>周囲の人々との関わりを促進する</p> <p>目的:家族、友人、先生、その他の学校関係者など身近にいて支えてくれる人や、地域の援助機関との関わりを促進し、その関係が長続きするよう援助する。</p> |
| 3 | <p>安定化（必要に応じて）</p> <p>目的:圧倒されている生徒と教職員の混乱を鎮め、見通しがもてるようにする。</p> | 7 | <p>対処に役立つ情報</p> <p>目的:苦痛をやわらげ、適応的な機能を高めるために、ストレス反応と対処の方法について知ってもらう。</p> |
| 4 | <p>情報を集める—いま必要なこと、困っていること</p> <p>目的:周辺情報を集め、生徒や教職員がいま必要としていること、困っていることを把握する。そのうえで、その人にあったPFA-Sを組み立てる。</p> | 8 | <p>紹介と引き継ぎ</p> <p>目的:被災者がいま必要としている、あるいは将来必要となるサービスを紹介し、引き継ぎを行なう。</p> |

出典:「サイコロジカル・ファーストエイド学校版 実施の手引き 日本語版」(兵庫県こころのケアセンター)

☞ <更に学びを深めるうえで参考となる情報>

- 「サイコロジカル・ファーストエイド実施の手引き 第2版 日本語版」(兵庫県こころのケアセンター)

【ミニケーススタディ(グループワーク)】グループワークの概要

- 本日のグループワークは、「インシデント・プロセス法」を用いて実施します。
- インシデント・プロセス法は、実際に起こった出来事(インシデント)をもとに、参加者が質問をしながら背景や原因を特定し、解決策を皆で議論していく事例検討法です。
- 今回のグループワークでは、「いじめ」「不登校」の2つのテーマについて、それぞれ1回(計2回)のケーススタディを実施します。また、ケーススタディを進めるにあたり、以下の3種類のシートを活用します。

ケーススタディで活用する3種類のシート

| | | |
|---|-------------|---|
| 1 | プロフィールシート | 子どもの願いや苦戦している状況、学級・学校の様子、家族、生育歴、援助チームメンバー、援助者の願いや苦戦等について、チーム援助の参加者が話し合いの始めに、子どもの状況について基本的な情報を共有する |
| 2 | 援助チームシート | 学習面/心理・社会面/進路面/健康面について、援助にあたって必要な情報を整理する |
| 3 | 援助資源チェックシート | 援助案作成に有用な学校/家族/地域の援助資源リストを作成する(援助しながらリストを充実させることをイメージする) |

参加者へ事前に3種類のシートを配布(記入例も併せて配布)し、研修の前に提出してもらう。実施主体(教育委員会)にて、その中から研修で扱う事例を1~2件選定する。

なお、プロフィールシートおよび援助チームシート・援助資源チェックシートはあくまで標準的な様式であり、各実施主体でカスタマイズしたり新たなファイルを作ることは問題ないが、その際には、資料内に出典(「石隈・田村式援助シートによるチーム援助入門：学校心理学・実践編」)を必ず明記すること。

- 各グループにて、アイスブレイクとして自己紹介をしていただきます。

共通点探し自己紹介

1. ルール説明 (2分)

【ルール】

- 自己紹介をしながら、グループメンバー全員の共通点をできるだけ多く見つける。
- 最後に、見つかった共通点の個数と一番面白かった共通点を全体向けに発表。

2. 自己紹介+共通点探し (20分)

- 1人あたり2~3分で自己紹介を実施。
 - マイブーム、最近嬉しかったこと、最近チャレンジしていること など
- 自己紹介後は、グループ内で自由に質問し合いながら共通点を探す。

3. 全体発表 (8分)

- グループごとに見つかった共通点の数と、一番面白かった共通点を発表する。

- ケーススタディ(各回)の大まかな時間割は以下のとおりです。

- | | |
|---------------------------|-------|
| 1. 状況の説明 | (5分) |
| 2. ステップ1(個人での検討・グループでの検討) | (15分) |
| 3. ステップ2(個人での検討・グループでの検討) | (25分) |
| 4. 発表 | (10分) |
| 5. 振り返り | (5分) |

約1時間の
ケーススタディを
2セット実施

- ステップ1として、以下のワークに取り組みましょう。

事例：中2男子 ヒロシ

ステップ1：プロフィールシートを読み、以下の点について話し合う。
※なおプロフィールシートは、教育相談コーディネーターなどが作成するもので、SC/SSWの関わる前の段階の情報を想定している。

- ①この時点で分かっていることは何か
- ②現時点でできる援助は何か（誰が、何を、どのように）
- ③さらに必要な情報とその収集方法は何か

- ステップ2として、以下のワークに取り組みましょう。

事例：中2男子 ヒロシ

援助チームシートは、援助チームの話し合いで参加者がもちよった情報をまとめ、それに基づき援助目標を確認し、援助チームでの援助方針と具体的な援助案を考えるための資料である。ヒロシの事例では、援助チームの話し合いまでには、SC/SSWのヒロシや保護者への関わりはまだないという想定である。

ステップ2:

- 援助チームシート(情報のまとめ)を読み、プロフィール資料、援助資源チェックシート
の情報と合わせて、ヒロシの状況について話し合う。
- 援助の目標(ヒロシが主語で、どうなりたいか)を確認しながら、援助チームでの援
助方針と具体的な援助案について考える

- ケーススタディの最後に、本日検討した支援案や参加者間で学んだことを振り返りましょう。

以下の点を中心に振り返りを行う。

- 支援案を検討するプロセスで良かった点/改善できる点
- 支援案について評価できる点/改善できる点
- 本日のケーススタディで活用できると感じた点/課題と感じた点
- 事例を検討するにあたり、伸ばしていきたいと考えるスキル

■ 予防的・開発的アプローチの重要性

- 「問題が起きてから支援する」問題対応的なアプローチだけでなく、全ての子どもたちが困難に直面したときに自ら助けを求め、周囲とつながる力を育てるための予防的・開発的なアプローチが重要である。
- 生徒指導提要でも示されているように、社会性や情動（感情）の育ちを支援する「ソーシャル・エモーショナル・ラーニング（SEL）」という考え方が近年重視されている。

■ ソーシャル・エモーショナル・ラーニング（SEL）の主な内容

- SELは、社会性（対人関係面）や情動面を重視した教育的取り組みの総称であり幅広い学習活動を含む。SELのフレームワークとして、5つの中心的な能力（SELコンピテンシー）が挙げられる。

| 能力 | 説明 |
|-----------|---|
| 自己への気づき | 自分の感情に気づき、また自己の能力について現実的で根拠のある評価をする力 |
| 他者への気づき | 他者の感情を理解し、他者の立場に立つことができるとともに、多様な人がいることを認め、良好な関係をもつことができる力 |
| 自己のコントロール | 物事を適切に処理できるように情動をコントロールし、挫折や失敗を乗り越え、また妥協による一時的な満足にとどまることなく、目標を達成できるように一生懸命取り組む力 |
| 対人関係 | 周囲の人との関係において情動を効果的に処理し、協力的で、必要ならば援助を得られるような健全で価値のある関係を築き、維持する力。ただし、悪い誘いは断り、意見が衝突しても解決策を探ることができるようにする力 |
| 責任ある意思決定 | 関連する全ての要因と、いろいろな選択肢を選んだ場合に予想される結果を十分に考慮し、意思決定を行う。その際に、他者を尊重し、自己の決定については責任をもつ力 |

出典：「社会性と情動の学習（SEL-8S）の導入と実践」（小泉令三）

🔗〈更に学びを深めるうえで参考となる情報〉

- 「SELについて」（日本SEL学会）
- 「『教師が知っておきたい子どもの自殺予防』のマニュアル及びリーフレット」（文部科学省）
- 「こころとからだのケア教職者用」（宮城県 ※兵庫県こころのケアセンター監修）

学級や学校における援助サービスの現状把握・振り返り

- 重層的支援構造（『生徒指導提要』）を参考にして、各学校における援助サービスや活用できるサービスを振り返ることで、支援案を検討する際のイメージがより明確になる。
- 下記のフォーマットをもとに、自校の援助サービスについて振り返ってみましょう。既存の「体制」に関するチェックと合わせて活用することで、今後の支援をより充実させるための課題や改善点が見えてきます。

| 支援の段階 | 振り返りの観点(例) | | 現状の評価 | 具体的な状況・今後の課題 |
|---|------------|---|-------|--------------|
| 一次的援助サービス (全ての児童生徒への支援) 「発達支持的生徒指導」及び「課題未然防止教育」に該当 | 1-1 | 全ての児童生徒が安心して学べる学級づくり・授業づくりが進められているか。 | | |
| | 1-2 | ソーシャル・エモーショナル・ラーニング(SEL)、SOSを出す力の養成など心理教育的な取り組みが、学校全体で積極的に推進されているか。 | | |
| 二次的援助サービス (苦戦する一部の児童生徒への支援) 「課題早期発見対応」に該当 | 2-1 | 児童生徒からのSOSを早期に発見し、対応するための仕組み(例:心の健康観察など)が機能しているか。 | | |
| | 2-2 | 支援を必要とする可能性のある児童生徒に対して、教職員が連携して早期の声かけや対応を行えているか。 | | |
| 三次的援助サービス (特別な援助ニーズのある特定の児童生徒への支援) 「困難課題対応的生徒指導」に該当 | 3-1 | 不登校やいじめなどの個別課題を抱える児童生徒に対し、「個別支援計画」に基づいた丁寧な支援が行われているか。 | | |
| | 3-2 | チーム学校として、SC/SSWや外部の関係機関等と連携した具体的な支援が組織的に行われているか。 | | |

【現状の評価の目安】

1:不十分・課題がある/2:ある程度できている/3:十分できている

■ 外部研修のスケジュール

ここに各自治体内外で実施している外部研修の情報を記載

■ 質疑応答・まとめ

ここに研修を通じて伝えたいメッセージの再掲や、
参加者からの質疑応答を受け付けるための各事項を記載

【出典】

- 「サイコロジカル・ファーストエイド学校版実施の手引き 日本語版」(兵庫県こころのケアセンター)
https://www.j-hits.org/files/00127028/pfa_s.pdf
(2026年3月31日閲覧)
- 「石隈・田村式援助シートによるチーム援助入門：学校心理学・実践編 新版」(石隈利紀・田村節子 2018 図書文化社)
- 「社会性と情動の学習 (SEL-8S)の導入と実践」(小泉令三 2011 ミネルヴァ書房)
- 「学校心理学辞典」(日本学校心理学会編 2025 丸善出版)

【参考となる情報】

- 「サイコロジカル・ファーストエイド実施の手引き 第2版 日本語版」(兵庫県こころのケアセンター)
https://www.j-hits.org/document/pfa_spr/page1.html
(2026年3月31日閲覧)
- 「SELについて」(日本SEL学会)
<https://j-sel.org/about/>
(2026年3月31日閲覧)
- 「『教師が知っておきたい子どもの自殺予防』のマニュアル及びリーフレット」(文部科学省)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/046/gaiyou/1259186.htm
(2026年3月31日閲覧)
- 「こころとからだのケア教職者用」(宮城県 ※兵庫県こころのケアセンター監修)
https://www.j-hits.org/files/00127325/1_3kokorotokarada_syokuin.pdf
(2026年3月31日閲覧)

スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー
初任者研修

第3回研修（応用・発展編）

1. オリエンテーション
2. 組織へのアプローチ
3. スーパービジョン(SV)の重要性と活用方法
4. SC/SSWのキャリアパス
5. グループワーク(今後の目標設定、地域の資源マップ作成)
6. 自己研鑽の考え方・外部研修の紹介

■ 研修全体の到達目標

- 自身の専門性を振り返り、より発展的なスキル（組織への働きかけ等）を学ぶきっかけとすると共に、中長期的なキャリア展望を描けるようになることを目指す。

■ 本日のゴール（応用・発展編）

- 組織への働きかけや自己のキャリアを考え、専門性を高め続ける視点を養う。

■ 本日のタイムテーブルは以下のとおり。

| アジェンダ | | 所要時間 | 時間割 |
|-----------|----------------------------|------|-----|
| 講義形式 | オリエンテーション | | |
| | 組織へのアプローチ | | |
| | スーパービジョン(SV)の重要性と活用方法 | | |
| (休憩) | | | |
| グループワーク形式 | 1年間の振り返りと今後の目標設定 | | |
| | 地域資源マップの作成～「顔の見える関係」の現状把握～ | | |
| (休憩) | | | |
| 外部研修の紹介 | | | |

所要時間並びに時間割については実施主体にて記載ください。基本的には1日での研修を想定しているため、午前中に講義形式、午後にグループワーク形式などを想定しています。

個別支援から組織支援(予防的・開発的支援)への視点転換の重要性

■ 組織支援の具体例(いじめの場合)

- 全ての学校はいじめに関する問題を特定の教職員で抱え込まずに組織的に対応するために、「学校いじめ対策組織」などの名称の校内組織を設置することが義務付けられているなど、組織支援が求められている。
- SC/SSWにおいても、組織支援の一員として積極的に関与することが求められる。

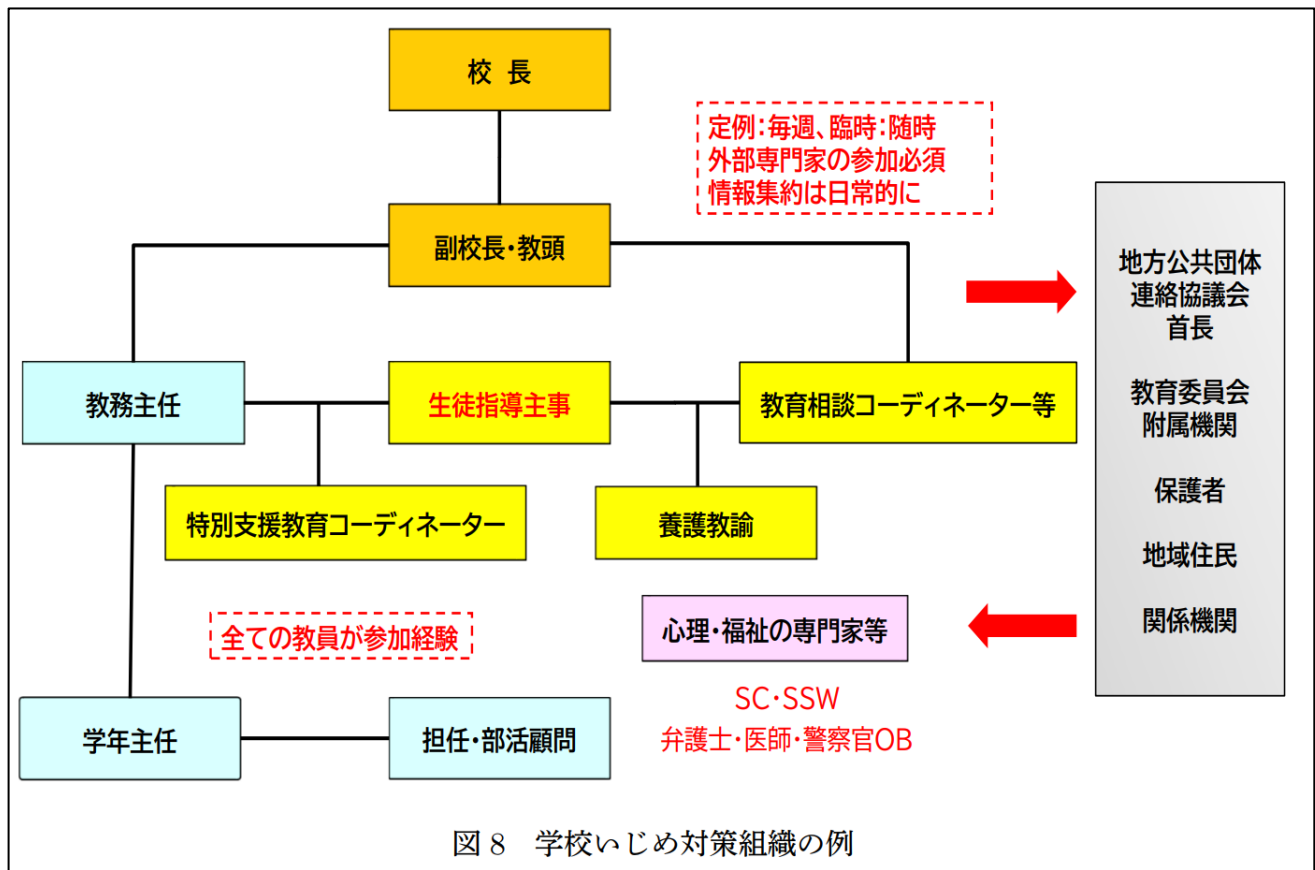


図8 学校いじめ対策組織の例

出典:「生徒指導提要(改訂版)」(文部科学省)

スーパービジョン(SV)の重要性と活用方法

スーパービジョン(SV)とは

■ 経験ある専門職(スーパーバイザー)から比較的経験の浅い専門職(スーパーバイジー)への指導・助言を指す

- 専門職としての知識と技術への訓練を促進・支援することに加え、SC/SSWとしてのモチベーション維持(燃え尽き防止)も期待できる。
- スーパーバイザー1人に対して、スーパーバイジーも1人で実施する個人スーパービジョンと、複数人のスーパーバイジーで実施するグループスーパービジョンがある。

個人スーパービジョン(SV)の流れ(一例)

| スーパービジョンの流れ | | スーパーバイザー | スーパーバイジー |
|-------------|---------------|----------|-------------------|
| 時期目安 | 項目 | | |
| 開始 | 事前面談前 | | 1. スーパーバイザーへの連絡 |
| | | | 自己チェックシート記入 |
| | | | スーパーバイザーへの依頼 |
| 1か月 | 事前面談/契約 | | 2. 事前面談の準備 |
| | | | 自己チェックシートの内容確認 |
| | | | 3. 事前面談 |
| | | | 事前面談 |
| | | | 4. 契約 |
| 契約 | | | |
| 2か月 | スーパービジョン1~6回目 | | 5. 初回スーパービジョンに向けて |
| | | | 事前課題の設定 |
| | | | 6. 事前準備 |
| | | | 事前課題の実施 |
| 2か月 | スーパービジョン7~8回目 | | 7. スーパービジョンの実施 |
| | | | スーパービジョンの実施 |
| | | | 8. 様式への記入 |
| | | | 機能表 |
| 個人記録 | | | |
| 12か月 | 総括 | | 9. 振り返り |
| | | | 振り返り |
| 終了 | 総括 | | 10. 事前準備 |
| | | | 機能表の記入 |
| | | | 自己チェックシート記入 |
| | | | 11. 総括 |
| | | | 総括 |
| | | | スーパービジョン実施報告書 |

出典:「認定社会福祉士制度スーパービジョン実施マニュアル」
 ~個人スーパービジョン用~
 (認定社会福祉士認証・認定機構)

グループスーパービジョン(SV)の流れ(一例)

| スーパービジョンの流れ | | スーパーバイザー | スーパーバイジー |
|-------------|----------------|----------|-------------------|
| 時期目安 | 項目 | | |
| 開始 | 事前面談前 | | 1. グループの形成 |
| | | | グループの形成 |
| 1か月 | 事前面談/契約 | | 2. 事前面談の準備 |
| | | | 自己チェックシートの内容確認 |
| | | | 3. 事前面談 |
| | | | 事前面談 |
| | | | 4. 契約 |
| 契約 | | | |
| 2か月 | スーパービジョン1~8回目 | | 5. 初回スーパービジョンに向けて |
| | | | 事前課題の設定 |
| | | | 6. 事前準備 |
| | | | 事前課題の実施 |
| 2か月 | スーパービジョン9~10回目 | | 7. スーパービジョンの実施 |
| | | | スーパービジョンの実施 |
| | | | 8. 様式への記入 |
| | | | 機能表 |
| 個人記録 | | | |
| 12か月 | 総括 | | 9. 振り返り |
| | | | 振り返り |
| 終了 | 総括 | | 10. 事前準備 |
| | | | 機能表の記入 |
| | | | 自己チェックシート記入 |
| | | | 11. 総括 |
| | | | 総括 |
| | | | スーパービジョン実施報告書 |

出典:「認定社会福祉士制度スーパービジョン実施マニュアル」
 ~グループスーパービジョン用~
 (認定社会福祉士認証・認定機構)

スーパービジョン(SV)の活用方法

- 専門職団体による研修・事業や自治体(教育委員会)・学校を通じた紹介など、様々な方法で活用が可能
- SC/SSWに関するスーパービジョン(SV)事業の一例は以下のとおりとなるため、これらの事業も適宜活用し、自身にあったスーパーバイザーを見つけることが重要である

【SC関係】

各都道府県などが主催するSV事業などについて掲載してください

例:日本臨床心理士会や都道府県臨床心理士会によるSV事業等

【SSW関係】

各都道府県などが主催するSV事業などについて掲載してください

例:日本社会福祉士会や各都道府県が実施するSV事業等

コンピテンシーモデル

■ “コンピテンシー”とは

- 能力・資質と訳され、職業的な知識スキルに加えて姿勢や態度にも関連する用語として使われており、日本公認心理師協会では、コンピテンシーについて以下の通り説明している。

「ここでいうコンピテンシーとは、科学的な知見を適用するのはもちろんのこと、相談者との関係を大切に、その自己決定を尊重すること、また文化的な多様性や多職種との協働を重視し、自らの実践を徹底して振り返りながら業務に当たることなどが含まれます。」

出典：コンピテンシー・モデル（公益社団法人 日本公認心理師協会）

■ SC/SSWとしてのキャリアを考えるにあたっては、求められるコンピテンシーへの理解も重要

- 右図は一般社団法人 日本公認心理師養成機関連盟が公表している公認心理師としての養成段階から継続したコンピテンシーの発達ベンチマークに該当。
- 右図はあくまでイメージとなるが、SC/SSWとしてのキャリアを考えていくにあたっては、段階的・継続的にコンピテンシーを身に付けていくことが重要。

| 職業的発達 | | | | | |
|----------------|--|--------------------------------|--|---|---|
| コアコンピテンシー | 学部卒業 ベンチマーク 1 | 大学院「担当ケース」実習前 ベンチマーク 2 | 大学院修了時 ベンチマーク 3 | 登録後 5年目 (初期研修期間) ベンチマーク 4 | 登録後 10年目 ベンチマーク 5 |
| プロフェッショナリズム | 公認心理師のプロフェッショナリズムに関する知識を習得している | プロフェッショナルリズムを理解し、指導の下で適切にふるまえる | いくつかの場面でプロフェッショナルリズムを有したふるまいができる | プロフェッショナルリズムを有した基本的な姿勢を自立して保つことができる | 難しい場面においても、プロフェッショナルリズムを有した姿勢を維持できる |
| 心理支援の基本的遂行能力 | 心理支援の基本スキルに関する知識を修得している | 心理的アセスメントと心理支援のロールプレイを適切に行える | 要支援者の理解とニーズの把握、支援計画の策定、結果評価、支援計画の再設定について、主体的に実施できる | 基礎的な機能コンピテンシーを獲得しており、自律して4つの基本業務を安定して行うことができる 勤務している分野に特化したより専門性の高い業務の一部を担える | 基本業務においてより複雑な事例に柔軟に対応できる 勤務している分野に特化したより専門性の高い業務を担える |
| 反省的实践 | | 反省的实践としてロールプレイを行える | 今後の資質向上のための計画を立てられる | 自らの到達目標の達成状況をアセスメントし、資質向上のための計画を策定できる | |
| 関係性 | | 基本的な関係性を作ることができる | | | |
| 科学的知識と方法 | コミュニケーションや多職種協働、倫理、実務等の知識を、現場で体験的に修得している | | 科学的知識と方法を心理支援に活用できる | | |
| 倫理・法的規準と政策 | | 倫理的配慮・法令遵守を理解しふるまえる | | | |
| 多様性と個性 | | 多様性や個性を重視してふるまえる | | | |
| 多職種協働/学際的な考え方 | | | 多職種の視点や支援方法について基本的な知識を持ち、活用できる | | 多職種連携においてリーダー的な立場で活動できる |
| 研究と評価 | 心理学に関する基本的な方法を修得し、研究の立案実施ができる | | 心理支援に関連した研究や評価を行うことができる | 必要な展開業務を理解し、一部を担える | 基本業務に加え、展開業務も主体的に実施できる |
| (スーパーヴィジョン・教育) | | | | | スーパーヴィジョンを含めた指導者としての役割が求められる |
| (管理・運営) | | | | | |

* 心理支援の基本的遂行能力：心理的アセスメント/心理支援/コンサルテーション/心の健康教育・啓発
 * 養成段階では「スーパーヴィジョン・教育」「管理・運営」のベンチマークは「プロフェッショナリズム」に含まれる



図 4 各職業的発達段階におけるベンチマーク

出典：公認心理師養成カリキュラム検討委員会報告書 コンピテンシー・モデルに基づく公認心理師養成カリキュラムの提言（一般社団法人 日本公認心理師養成機関連盟）

1年間の活動経緯を踏まえて学校関係者と振り返りを行うことが重要

■ 年度末(あるいは学期末等)節目のタイミングでの振り返りが重要

- 以下は社団法人日本社会福祉士会スクールソーシャルワーク委員会が公表している「新任スクールソーシャルワーカーのための自己チェックシート」となる。
- 様々なフォーマットが考えられるが学校側の関係者と今年度の取り組みについて共通認識を持てるようにすることが重要。
- 次ページに振り返りシートフォーマットを掲載するため活用いただきたい。

1. 自己チェックシートの目的

- ・配置早々もしくは配置予定のSSWe rが、SSWe rとして必要な知識や行うべきことに気づけるようにする。
- ・気づいた事項に対し、参考となる資料や助言を提示する。
- ・都道府県社会福祉士会で研修を開催する際の研修資料としても活用できるようにする。

2. 自己チェックシートの対象者

- ・新任もしくは配置予定のSSWe r
- ・ただし、ソーシャルワークの知識・技術は有していることを前提とする

3. チェックシートの内容

(1) 自己チェックシート

自己チェックシートを用いて、まず何をしなければいけないか、何が不足しているか気づくようにする。

- ①倫理面を確認する
- ②不足している知識面に気づく
- ③不足している機能面に気づく
- ④不足している環境面に気づく

(2) 自己チェックシートをふまえた参考資料・助言

4. 使い方

(1) 最初に、自己チェックシートの項目を読み、自分自身の不足している箇所をチェックして下さい。

(2) 続けて、不足している項目についてご自身で対策・対応を考えて下さい。その際に、「自己チェックシートをふまえた参考資料・助言」を参考にして下さい。

(3) 必要に応じ、支部や同僚・仲間と意見交換をして下さい。不足していないと思っていたことでも、意見交換をする中で、誤解していたということが見つかるかもしれません。

```

graph TD
    A((必要な知識)) <--> B((必要な機能))
    A <--> C((効果的実践))
    B <--> C
    C <--> D((必要な環境))
  
```

★★★ 知識面のチェック ★★★

1. 学校に関する知識

- 1) 学校教職員の校務分掌を知っていますか。
- 2) 教育委員会制度・教育事務所を知っていますか。
- 3) 学校組織・制度を知っていますか。
- 4) 教職員の採用・配置・ローテーションの仕組みを知っていますか。
- 5) 県採用、市採用があることを知っていますか。
- 6) 教育行財政の組織と仕組みについて知っていますか。

2. 子どもの発達や障がいに関する知識

- 1) 小学生（低学年・中学年・高学年）や中学生の発達課題を理解していますか。
- 2) 発達障がいの診断名とその特徴を理解していますか。
- 3) 保健センターの健診や精密検査、発達の遅れが見られるときのシステムを知っていますか。
- 4) 特別支援教育の理念と仕組みを知っていますか。
- 5) 特別支援学校・特別支援学級・通級制度を知っていますか。

3. 非行に関する知識

- 1) 少年非行の分類、その後の仕組みを知っていますか。
- 2) 裁判付添人、及び少年当番付添人制度を知っていますか。
- 3) 少年補導員、少年補導センターを知っていますか。
- 4) 保護司を知っていますか。

【ワーク①】1年間の振り返りと今後の目標設定

- 次頁の記入フォーマットを用いて今年度の振り返りと今後の目標設定を行いましょう
 - No.1～6においては、1年間の取り組みを振り返り記入しましょう
 - No.7においては、各都道府県の最新の状況（「問題行動等調査」結果など）も踏まえて目標を設定しましょう

- ルール・手順（所要時間：30分）
 - まずは個人で記入フォーマットについて記載する（10分）
 - 記載内容を互いに発表し、聴講者は1人1つずつ質問を行う（20分：5分×4人）

所要時間は研修時間・グループワークの人数等に応じて実施主体にて適宜修正

グループワーク①_初任者SC:振り返りフォーマット

1. 基本情報・配置状況

1-1. 基本情報

年度: _____
 氏名: _____
 所属: _____
 資格: _____

1-2. 配置状況

担当校数: _____校
 勤務日数/時間: _____
 主な勤務形態:
 派遣方式 巡回方式
 単独校配置方式 拠点校配置方式
 その他: (_____)

2. 今年度の活動実績の整理

2-1. 相談・面接の件数

児童生徒: _____件 保護者: _____件 教職員: _____件 その他: _____件

2-2. 主な相談内容

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 不登校・学校への行きしぶり | <input type="checkbox"/> 情緒面の不調(不安・抑うつ・意欲低下等) |
| <input type="checkbox"/> いじめ・対人関係のトラブル | <input type="checkbox"/> 家庭内の問題(親子関係、養育不安等) |
| <input type="checkbox"/> 行動上の問題(暴言・暴力・反抗等) | <input type="checkbox"/> 教職員のメンタルヘルス・対応相談 |
| <input type="checkbox"/> 発達特性に関する相談 | <input type="checkbox"/> その他(_____) |

2-3. 校内での連携・協働

参加した会議: _____

実施した取り組み:

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 教職員や保護者へのケース会議への参加・助言 | <input type="checkbox"/> 教職員向けミニ研修・講話 |
| <input type="checkbox"/> 保護者向け講演・学級懇談会での説明 | <input type="checkbox"/> 教室観察・学級経営への助言 |
| <input type="checkbox"/> その他(_____) | |

3. 自分の実践を振り返る

3-1. 支援によって状況が改善した事例・場面

- 1) _____
 2) _____

3-2. 支援が困難と感じた事例・場面

- 1) _____
 2) _____

3-3. SCとしての役割理解の変化

着任前にイメージしていたこと:

1年の経験を通じた変化:



4. 倫理/判断に関する振り返り

4-1. 倫理/判断に迷った場面

4-2. 倫理/判断に迷った際の対処方法や学び

5. 連携/協働に関する振り返り

5-1. 連携/協働でうまくいった場面

5-2. 連携/協働でうまくいかなかった場面

6. 自身の心身の状態・働き方の振り返り

6-1. 負担感・ストレス

- 非常に高い やや高い ふつう やや低い 低い

主なストレス要因:

- | | |
|--|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ケースの重さ・複雑さ | <input type="checkbox"/> 他職種との意見の相違 |
| <input type="checkbox"/> ケース数の多さ・時間の不足 | <input type="checkbox"/> 自分の経験不足・不安 |
| <input type="checkbox"/> 校内での立場・役割のあいまいさ | <input type="checkbox"/> その他(_____) |

6-2. ストレスへの対応や健康を維持した方法

7. 自身の成長・専門性の発達の振り返り

7-1. 今年度、特に成長したと思う点

理論・知識面: _____

技法・スキル面: _____

7-2. 参加した研修・スーパービジョン

7-3. 来年度以降、強化したい領域

理論・知識面: _____

技法・スキル面: _____

7-4. 次年度の個人目標

1. 基本情報・配置状況

1-1. 基本情報

年度: _____
 氏名: _____
 所属: _____
 資格: _____

1-2. 配置状況

担当校数: _____校
 勤務日数/時間: _____
 主な勤務形態:
 派遣方式 巡回方式
 単独校配置方式 拠点校配置方式
 その他: (_____)

2. 今年度の活動実績の整理

2-1. 相談・面接の件数

児童生徒: _____件 保護者: _____件 教職員: _____件 その他: _____件

2-2. 関係機関との連携実績

【教育】

- 校内関係者（管理職、学年主任等）
- 教育委員会
- 他校（在籍校・前籍校・進学先等）
- 学校外の教育機関（教育支援センター等）

【福祉】

- 児童相談所
- こども家庭センター
- 児童福祉施設
- 民生委員・児童委員
- 障害者基幹相談支援センター
- 発達障害者支援センター
- 児童家庭支援センター

【医療】

- 医療機関（小児科・内科）
- 医療機関（精神科）
- 保健センター
- 訪問看護ステーション

【司法】

- 警察
- 家庭裁判所

その他(_____)

3. 自分の実践を振り返る

3-1. 支援によって状況が改善した事例・場面

- 1) _____
- 2) _____

3-2. 支援が困難と感じた事例・場面

- 1) _____
- 2) _____

3-3. SSWとしての役割理解の変化

着任前にイメージしていたこと:

1年の経験を通じた変化:



4. 倫理/判断に関する振り返り

4-1. 倫理/判断に迷った場面

4-2. 倫理/判断に迷った際の対処方法や学び

5. 連携/協働に関する振り返り

5-1. 連携/協働でうまくいった場面

5-2. 連携/協働でうまくいかなかった場面

6. 自身の心身の状態・働き方の振り返り

6-1. 負担感・ストレス

非常に高い やや高い ふつう やや低い 低い

主なストレス要因:

- ケースの重さ・複雑さ
- ケース数の多さ・時間の不足
- 校内での立場・役割のあいまいさ
- 他職種との意見の相違
- 自分の経験不足・不安
- その他(_____)

6-2. ストレスへの対応や健康を維持した方法

7. 自身の成長・専門性の発達の振り返り

7-1. 今年度、特に成長したと思う点

理論・知識面: _____

技法・スキル面: _____

7-2. 参加した研修・スーパービジョン

7-3. 来年度以降、強化したい領域

理論・知識面: _____

技法・スキル面: _____

7-4. 次年度の個人目標

【参考資料】いじめの重大化を防ぐための留意事項集・いじめの重大化を防ぐための研修用事例集（令和7年11月）

- 文部科学省とこども家庭庁では「いじめの重大化要因等の分析・検討会議」において、32の重大事態調査報告書を、(1)いじめの重大化を防ぐための対応、(2)いじめの重大化につながり得る要素・特徴という観点から分析し、得られた留意事項を15項目に整理し、「いじめの重大化を防ぐための留意事項集」として取りまとめている
- また、15項目の留意事項を踏まえ、研修で活用できる「いじめの重大化を防ぐための研修用事例集」を併せて作成している

小学3年生

①

事例 ① 発達特性によるコミュニケーションの行き違いから生じたいじめ事案

小学3年生のAさんは、集団行動が苦手で、相手の気持ちを読み取ることが難しい傾向があった。ある日、休み時間にAさんがBさんの持ち物を勝手に触ったことがきっかけで、給食の時間にBさんとその友人たちが「Aさんは変なやつだ」と言いながら、Aさんを無視したり、陰口を言ったりしていた。その様子を目撃した担任は、関係する児童に対し「無視や悪口を言うことはいじめになるからやめなさい」と厳しく叱責した。

その日の帰りの会に、Aさんが隣の席のCさんの連絡帳に突然落書きをしまい、Cさんが泣いてしまった。担任はAさんを叱責したが、Aさんはなぜ怒られたのか理解できず、反省の様子も見られなかったため、さらに厳しく指導し、Cさんに謝罪をさせた。Bさんがその様子を笑いながら見ていたことにAさんが気付き、股りかきりそうになるのを担任が制止した。

担任はこの一連の指導について、それぞれの家庭に連絡し、相手が嫌な思いをすることをしないよう家庭でも指導してもらおう依頼した。Aさんの母親は「家でも手が付けられないときがあって困っています。御迷惑をおかけして申し訳ありません」と泣きながら話していた。

翌日、Bさんとその友人たちが「Aさんは乱暴で怖いし何するか予想できない」と言いふらし、Aさんを迎えるようになった。Aさんはその行動の意味を理解できず、何度もBさんたちに話しかけたり、距離を詰めたりしたが、その度に「しつこい」「空気が読めない」と言われていた。実際に、Aさんの行動は衝動性によるもので、悪意のないものであったが、周囲の児童に不安な気持ちが広がり、Aさんは次第に教室での居場所を失っていった。

音楽の担当教諭が、Aさんの授業中の様子が気に入り校長に相談したが「担任は学年主任で生徒指導主任だし、指導力があるから任せおけば大丈夫でしょう」と言われた。

その後、Aさんの行動の衝動性はさらに高まり、その都度担任から指導を受ける日が続き、時には担任以外の教職員が応援に行くこともあった。担任の対応やクラスの雰囲気も「またか」という感じになっていた。

応援として養護教諭が対応に当たったときに、Aさんが「毎日先生から怒られるし、クラスの子からは悪口を言われて無視もされる。教室にはいたくない。自分は学校に来ない方がいいのかな」と泣きながら訴えてきた。養護教諭は教頭に事情を説明し、校長に報告、いじめ対策組織で対応について検討することとなった。

4

① 事例を読んで、学校の対応、担任の指導・対応や児童の言動で気になったところを挙げましょう。

② ①で挙げた気になる点について、あなたが担任の立場であったら、いじめの重大化を防ぐために、どのように対応をしますか。

③ あなたの学校では、このような事例を防止するために、学校でどのような取り組みを想定していますか。また、あなたの立場からはどのような取組の取組に必要なサポートについても考えてみましょう。

1

小学校教職員向け

5

各研修実施主体において、
ご活用をご検討ください

以下のとおり整理できた地域資源を実際の地図に落とし込み、今後活用することが目的!

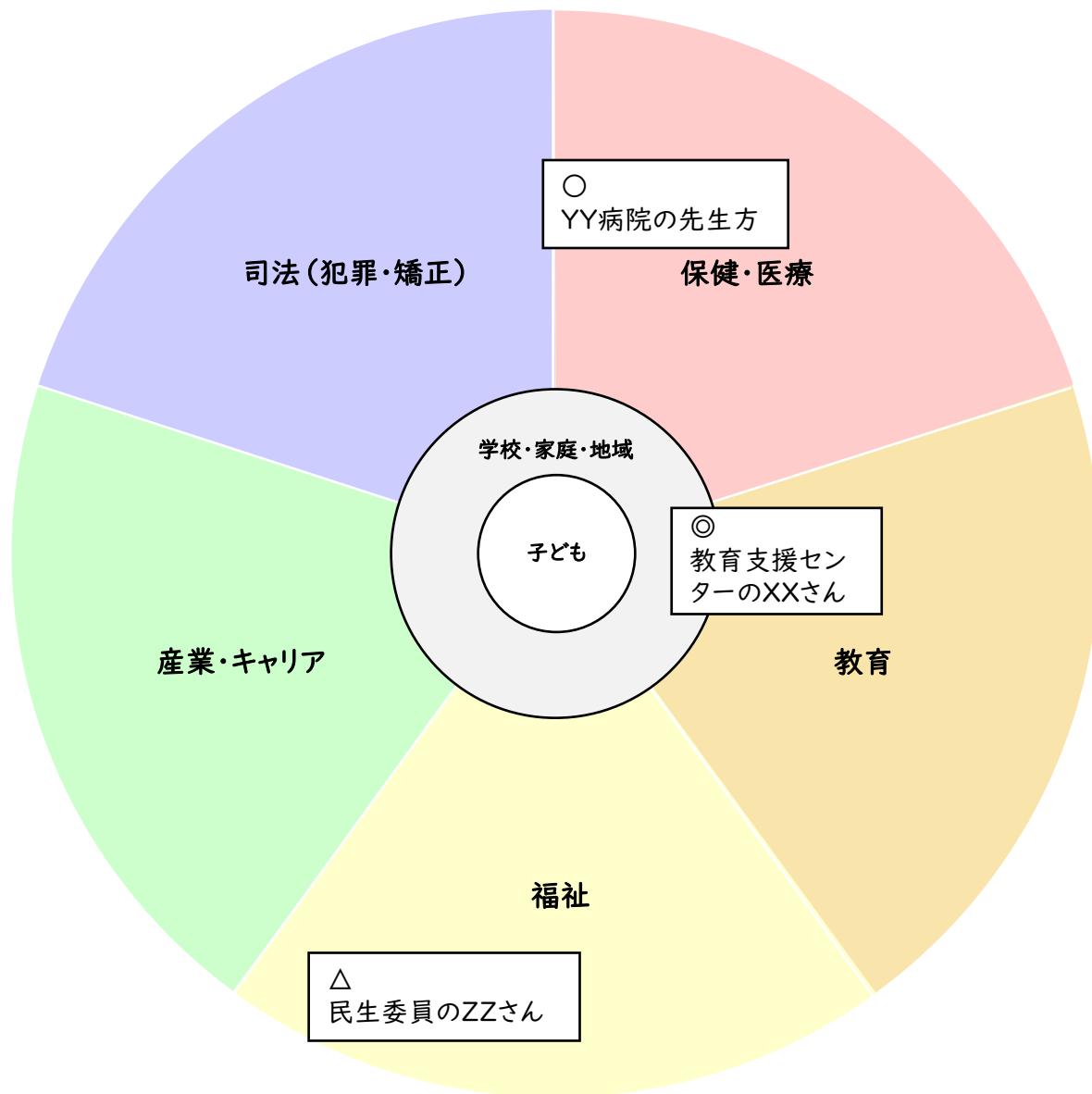
【ワーク②】地域資源マップの作成 ~「顔の見える関係」の現状把握~

■ ワークの目的

- 子どもを取り巻く支援リソースを可視化し、現在の「つながりの濃さ」を確認する。
- 連携が不足している領域(空白地帯)に気づき、今後の関係構築の目標とする。

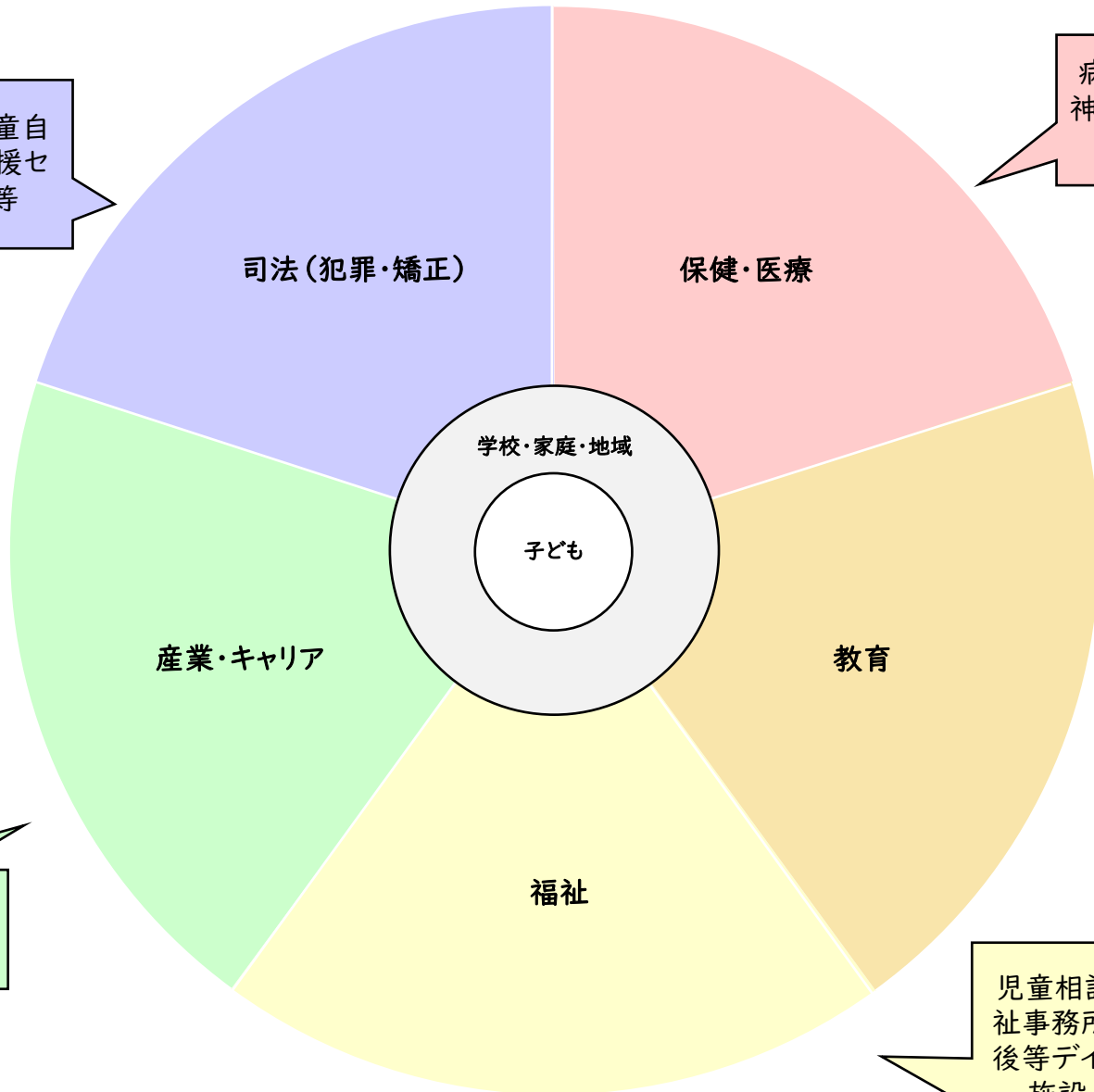
■ ルール・手順

1. 手元の用紙の中央が「子ども」、「学校・家庭・地域」
2. 用紙を5つのエリアに区切る。
3. 思いつく関係機関や人物を配置する。
※心理的な距離が近いものほど自校近くに配置
4. 関係性の濃さで記号をつける。
 - ✓ ◎:担当者の顔が浮かび、携帯や直通電話で相談できる。
 - ✓ ○:窓口や組織としての連絡先を知っている。
 - ✓ △:名前は知っているが、接点はない。



【ワークシート】

警察、青少年センター、児童自立支援施設、法務少年支援センター、人権擁護委員等



病院、精神科医、嘱託医、精神保健福祉センター、保健所、保健センター、保健師等

教育支援センター、フリースクール等

地域若者サポートステーション、ハローワーク等

児童相談所、児童家庭センター、福祉事務所(家庭児童相談室)、放課後等デイ、市町村福祉課、児童養護施設、民生委員・児童委員等

■ 外部研修のスケジュール

ここに各自治体内外で実施している外部研修の情報を記載

■ 質疑応答・まとめ

ここに研修を通じて伝えたいメッセージの再掲や、
参加者からの質疑応答を受け付けるための各事項を記載

- 生徒指導提要(改訂版)(文部科学省)
https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf
(2026年3月31日閲覧)
- 「認定社会福祉士制度スーパービジョン実施マニュアル」(認定社会福祉士認証・認定機構)
https://www.jacsw.or.jp/ninteikikou/supervision/documents/kojinsv-jisshimanual_2023_0918_2.pdf
https://www.jacsw.or.jp/ninteikikou/supervision/documents/gsv-jisshimanual_0220923.pdf
(2026年3月31日閲覧)
- 「コンピテンシー・モデル」(公益社団法人 日本公認心理師協会)
https://www.jacpp.or.jp/pdf/competency_model_jacpp.pdf
(2026年3月31日閲覧)
- 公認心理師養成カリキュラム検討委員会報告書 コンピテンシー・モデルに基づく公認心理師養成カリキュラムの提言
(一般社団法人 日本公認心理師養成機関連盟)
<https://kouyouren.jp/wp-content/uploads/2023/07/20230701.pdf>
(2026年3月31日閲覧)
- 新任スクールソーシャルワーカーのための自己チェックシート
(公益社団法人日本社会福祉士会 スクールソーシャルワーク委員会)
<https://www.jacsw.or.jp/citizens/josei/documents/2009/checkseet.pdf>
(2026年3月31日閲覧)
- いじめの重大化を防ぐための留意事項集・いじめの重大化を防ぐための研修用事例集(令和7年11月)
(こども家庭庁・文部科学省)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1414737_00022.htm
(2026年3月31日閲覧)